

「令和3年度西九州大学自己点検評価報告書」における

外部評価報告書

I 評価結果

【判定】

令和3年度の自己点検評価について、認証評価の基準区分に沿った計画がなされ、適切な実施運用及び自己評価がなされており、その妥当性を確認した。令和3年度事業計画の目標は概ね達成している。

II 総評

自己点検評価報告書からは、担当部署ごとに基準区分に沿って計画実施がなされており、「概ね順調に進んでいる」ことを確認した。計画（検討及び実施事項）に対する総括が示されていない一部の項目や、平成29年度大学機関別認証評価「評価報告書」に記される「改善を要する点」及び「自己点検評価報告書」に記された「改善・向上方策（将来計画）」の課題は今後も残されるが、コロナ禍によって各計画実施に制限があるなかで、各部署において最善の取組みがなされている。大学院では栄養学博士後期課程並びに看護学修士課程が新たに設置認可され、募集広報も強化された。一方では、Teams等を活用したオンライン授業等の活用や、数理データサイエンス教育といった新たな拡がりを見せており、「基準1. 使命・目的等」「基準2. 学修と教授」に係る今後の新たな展開が期待される。学修成果については、「可視化」から「実質化」へと進展してきており、実施運用の更なる充実改善が期待される。また「基準1. 使命・目的等」において、地域社会との連携強化については、各部署の計画・実施に留まらず、大学改革を見据えた全学的な取組みとして拡充が期待される。

報告書については、点検・評価の機能が見出しにくい点が挙げられる。平成29年度大学機関別認証評価「評価報告書」に示された「改善を要する点」及び「自己点検評価報告書」に記された基準区分毎の「改善・向上方策（将来計画）」に対して、点検・評価運営委員会はアクションプログラムを集約するだけでなく、「基準4. 自己点検・評価」の「改善・向上方策（将来計画）」に示されているように、実施運用体制の改善充実を目指し、各部署から導かれた達成状況や進捗状況、今後の改善課題を基準区分ごとに集約・総括し、今後の課題等を整理・共有するなどして、機能充実を図ることが期待される。機関全体としての総括が示されることは、大学の広報にもつながるものと考えられる。

令和4年11月30日

西九州大学短期大学部 副学長 平田 孝治